

We are the User Experience Company.



# iid Press

株主通信「イードプレス」

第19期

2018年6月期  
(2017.7.1～2018.6.30)

通期報告書



# 株主の皆さまへ

TOP MESSAGE

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

2018年6月期は、コンテンツマーケティングプラットフォーム事業（CMP事業）の好調に支えられ、連結売上高は4,715百万円と過去最高を更新し、営業利益も256百万円で前期比約3倍と大幅に改善することができました。

CMP事業におきましては、新たに映画レビューまとめサービス「coco」の運営を開始したほか、自社でのメディア開発も積極的に行っております。仮想通貨に関するWebメディア「仮想通貨の先生」や、アスリート（人）に焦点を当てたスポーツメディア「SPREAD」など、新たに8つのサイトをオープンいたしました。また、引き続きメディア運営力を活かしたオウンドメディア支援など、B2Bビジネスにおける事業拡大を図っております。

またモビリティ革命に対応したアクセラレーションプログラム「iid 5G Mobility」では、今後の自動車業界が「サービスとしての移動」であるMaaS (Mobility as a Service) に推移し拡大していくことに対応し、月次でMaaS関連のセミナーを開催するほか、MaaSを新たな事業機会と捉え、今後も関連企業やサービスの発掘、支援を積極的に行ってまいります。

私たちイードグループは、連結子会社である株式会社エンファクトリーや株式会社絵本ナビ、株式会社ドリームリンクが運営するEC事業、ネイティブ株式会社の地方創生支援ビジネスなど、今後もグループ丸となってB2B、B2Cそれぞれにおける事業領域の拡大を目指してまいります。

今後とも引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



株式会社 イード  
代表取締役 **宮川 洋**

## Contents

- 株主・投資家の皆さまへ ..... ①
- イードの事業概況 ..... ②
- 2018年6月期通期業績ハイライト ..... ③
- 特集 ..... ⑤
- 会社概要・株主の概況 ..... ⑨

# Contents Marketing Company

イードは、Webメディア運営会社の旧IRI-CTと、マーケティングリサーチ会社の旧イードが合併して生まれたコンテンツマーケティングカンパニーです。

インターネットを活用した企業のマーケティング支援事業を軸に、すべてのステークホルダーにとって最高のUXを提供できるよう挑戦し続けています。

## ■イードの事業概況：2つのセグメントにて事業を展開しています



## 2018年6月期通期 業績ハイライト

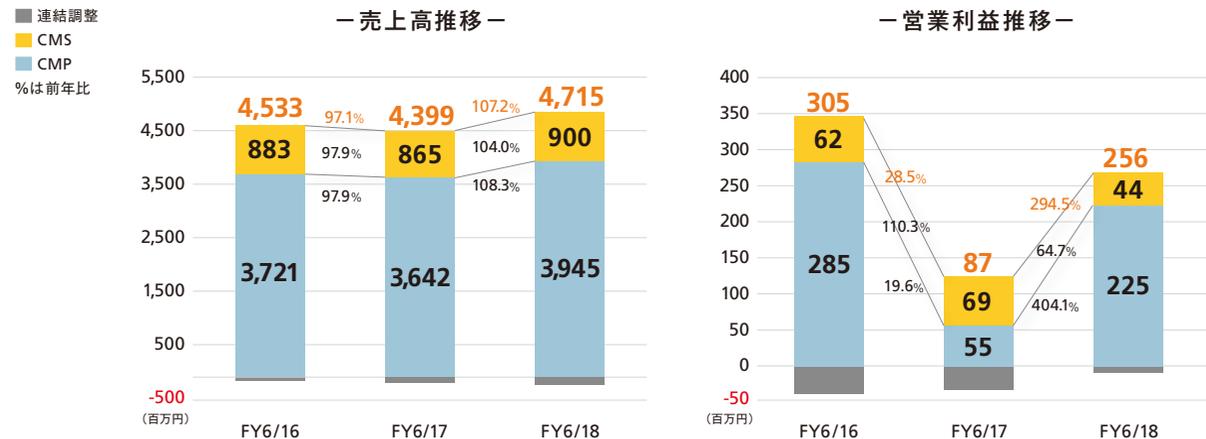
- ・連結の売上高は堅調に推移し過去最高を更新
- ・連結の営業利益はCMPの大幅改善により前期の約3倍に改善

連結				CMP				CMS			
	FY6/18	FY6/17	前期比		FY6/18	FY6/17	前期比		FY6/18	FY6/17	前期比
売上高	4,715	4,399	107.2%	売上高	3,945	3,642	108.3%	売上高	900	865	104.0%
営業利益	256	87	294.5%	営業利益	225	55	404.1%	営業利益	44	69	64.7%
営業利益率	5.4%	2.0%	+3.5pt	営業利益率	5.7%	1.5%	+4.2pt	営業利益率	5.0%	8.0%	△3.0pt

(百万円)

## 2018年6月期通期 セグメント別売上高、営業利益の推移

- ・CMP事業の売上高はメディア・システム、データ・コンテンツ提供の伸びにより前年比8.3%増加
- ・CMP事業の営業利益は売上高の増加、コスト削減(広告宣伝費の減少、外注費の増加抑制など)により前期比約4倍に大幅改善



## 2018年6月期通期 連結損益計算書

- ・2018年5月15日公表の業績予想に対し、営業利益は128.0%、経常利益は134.5%といずれも予想を大幅に上回る結果となりました。

売上高は4,715百万円となり5月15日公表の業績予想に対して106.0%の達成率となりました。また営業利益は256百万円で達成率128.0%、経常利益も269百万円で達成率134.5%と予想を大きく上回る結果となりました。

売上高については、CMP事業において当連結会計年度中に株式取得によりネイティブ株式会社が連結子会社となったことや、メディア・システム、データ・コンテンツ提供が堅調だったことが要因として挙げられます。営業利益についてもCMP事業において、売上高の増加に加えて広告宣伝費の減少や外注費の増加抑制などコスト削減が営業利益の大幅改善に寄与しました。

	FY6/18 期末	5/15公表の業績予想	達成率	FY6/17 期末	前期比
売上高	4,715	4,450	106.0%	4,399	107.2%
営業利益	256	200	128.0%	87	294.5%
経常利益	269	200	134.5%	90	298.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	50	50	100.0%	-437	—

(百万円)

## 2018年6月期通期 連結貸借対照表

- ・純資産について利益剰余金は増加しているが、自己株式取得による減少により、トータルでは前期比48百万円減の2,554百万円となりました。

当連結会計年度末における総資産は3,391百万円(前連結会計年度末比324百万円減少)となりました。これは主に、流動資産に含まれる受取手形および売掛金が330百万円減少したこと、固定資産に含まれる減損損失の計上および償却に伴いのれんが88百万円減少したこと等によるものです。

当連結会計年度末における負債総額は836百万円(前連結会計年度末比276百万円減少)となりました。これは主に、流動負債に含まれる買掛金が429百万円減少したこと、固定負債に含まれる連結子会社の長期借入金が38百万円増加したこと等によるものです。

当連結会計年度末における純資産合計は2,554百万円(前連結会計年度末比48百万円減少)となりました。これは主に、自己株式の取得等により97百万円減少したこと、利益剰余金が50百万円増加したこと等によるものです。

	FY6/18 期末	FY6/17 期末	前期比 増減額
流動資産	2,758	2,975	-217
現金及び預金	1,870	1,795	75
固定資産	632	739	-107
のれん	88	176	-88
資産合計	3,391	3,715	-324
流動負債	707	1,009	-302
固定負債	129	103	26
負債合計	836	1,112	-276
株主資本	2,505	2,541	-36
利益剰余金	877	827	50
自己株式	-97	—	-97
純資産	2,554	2,602	-48
負債・純資産	3,391	3,715	-324

(百万円)

## 「iid 5G Mobility」はモビリティのサービスレイヤーMaaSに注目

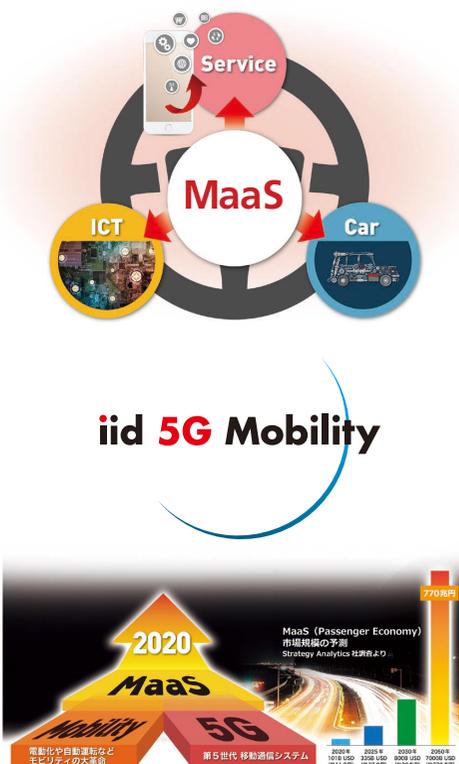
Connected (コネクテッド)・Autonomous (自動運転)・Shared and Services (シェアリング)とElectric (電動化)との頭文字をとった「CASE」は、自動車におけるハード側面の変化とITC側面の波が、同時に来ることで製造販売の自動車ビジネスが大きく変化することを示しています。「CASE」は自動車を変えます。進化する自動車は、今後「サービスとしての移動」MaaS (Mobility as a Service)に推移し、拡大するとされています。iid 5G Mobilityでは、今後MaaSに注目し、非連続的な成長を目指していきます。

### イードが考えるMaaSとは

イードではMaaS (Mobility as a Service)を広義に捉えています。現状の自動車ビジネスは、新車販売からメンテナンス、給油、保険、中古車流通、リサイクルなど多岐にわたります。それらすべてがスマートフォンやIoTそしてビッグデータやAIによって“スマートサービス”に進化を始めています。すべてのモビリティビジネスがスマートサービスになる。これがMaaSだと考えています。

### 「iid 5G Mobility」の取り組み

「iid 5G Mobility」の取り組みとして、今期よりメディア・リサーチ・データベースなどの自動車関連事業アセットを利用した支援プログラムを多数実行しています。海外展示会のレポートや中国最新事例を体験する視察ツアーを実施するなど、企業向けコンサルティング業務も拡大しております。また2017年9月より11回のセミナーイベントを行い、のべ41名の講師を招きました。当社自動車メディア「レスポンス」のインタビュー特集と連動は31回。情報発信のレベルも上げてまいりました。今後はMaaSに注目して2018年8月より月刊でMaaSイベントも開催いたします。MaaSの世界経済規模は2020年の時点で1010億ドル(11兆円)、2030年には8000億ドル(88兆円)に成長し、2050年には7兆ドル(770兆円)になると予測されています。iid 5G Mobilityでは、新しいモビリティ・スマートサービス(MaaS)を発掘・支援、更に資本業務提携などを実施することで、新たな事業機会を捉え、非連続的な成長を目指していきます。



## テクノロジーを活用した広告ビジネス開発

日進月歩で進化するデジタル広告において、早期に新しい領域でのマーケティング能力を獲得することを目指します。

### データを活用した 広告・マーケティング施策

主要全媒体に導入されている全社的なマーケティングデータ基盤(イードDMP)を活用し、メディアを活用したユーザーの理解、長期的な顧客育成を目的に、大手広告代理店、大手クライアント等と戦略的な取り組みを進めています。



### AIスピーカー向けの コンテンツ配信と広告施策

音声領域への対応も進めており、AIスピーカーのAmazon EchoやApple Podcast向けにもコンテンツ配信を開始。株式会社博報堂DYメディアパートナーズ様、ロボットスタート株式会社様との共同でAIスピーカー向けの音声広告配信の実証実験も行っています。(2018年8月中)



### バーチャルユーチューバーを 使ったマーケティング施策

VR技術を応用した、バーチャルキャラクターによる動画配信。ゲーム情報サイト「インサイド」のキャラクターをバーチャルユーチューバーとしてデビューさせ、これを活用したマーケティング支援をスタートしています。



## 日本最大級の映画レビューサイト 「coco」を事業取得

累計で100万件を超える映画レビューを収集している、日本最大級の映画レビューサイト。当社がこれまで運営してきた映画情報サイト「シネマカフェ」との連携を進めています。



## アスリート(人)に焦点を当てた 新たなスポーツメディア 「SPREAD」をオープン

「SPREAD」は2018年3月から運用を開始し、2018年7月より正式オープンした、アスリート(人)にフォーカスしたスポーツメディアです。2018年7月の月間ページビューは100万を超え、順調な滑り出しとなっています。

# SPREAD



## 株式会社Casaの賃貸経営等に関する オウンドメディア「大家ナビ」の運用を開始

株式会社Casaが運営する賃貸経営、アパート経営、マンション経営、資金運用に関する情報サイト「大家ナビ」のメディア構築、記事制作などを全面サポート。家主にとって有益な情報を発信しています。



## グループ会社における新しい事業領域へのチャレンジ、 新規ビジネス開発への取り組みについて



### LINEで専門家がカウンセリング する「トークCARE」

様々なジャンルの専門家に「LINE」のトーク上で直接相談することができる新サービス「トークCARE」に、エンファクトリーが提携する約200名の専門家を連携してサービスを開始しました。



### Made in Japanを適正価格で アパレルD2Cの新ブランド

ECサイト「STYLE STORE」やリアルショップ「TENOH & STYLE STORE」で培った経験やノウハウを活かしたD2C (Direct to Consumer) の2つの新ブランド「Kilka (キルカ)」と「Nells (ネルズ)」を立ち上げました。



### 育児情報誌「miku」を取得

「子どもと私が育つ! 楽しむ!」をテーマに、「ママパパ自身の気付き」「考えるきっかけ」を提供します。年3回(3・7・11月発行予定)、13万2000部を発行し、全国2600箇所無料で配布しています。



発行部数: 132,000部

発行サイクル: 年3回

配布場所: 2,600箇所

仕様: A4判/4C/32~60P 中綴じ

## 会社概要

会社名	株式会社イード (IID, Inc.)
設立	2000年4月28日
所在地	〒163-0228 東京都新宿区西新宿2丁目6-1 新宿住友ビル28階
資本金	868,501千円
事業内容	メディア事業 リサーチ事業 メディアコマース事業
従業員数	単体141名／連結215名
子会社	Interface in Design, Inc. 株式会社エンファクトリー 株式会社絵本ナビ 株式会社ドリームリンク ネイティブ株式会社



## 役員

代表取締役	宮川 洋
取締役	須田 亨
取締役○	大和田 廣樹 (株式会社ブロードバンドタワー 取締役)
取締役○	吉崎 浩一郎 (株式会社グロース・イニシアティブ 代表取締役)
監査役	山中 純雄 (常勤監査役)
監査役○	岡田 智雄 (元ニフティ株式会社 代表取締役社長)
監査役○	安達 美雄 (元株式会社大塚商会執行役員)

○=社外役員

## 株主の概況

発行可能株式総数	8,000,000株
発行済株式の総数	4,994,300株
株主数	2,042名

■大株主の順位

順位	大株主名	株式数	持株比率
1	エキサイト株式会社	706,900	14.42%
2	株式会社三越伊勢丹イノベーションズ	653,100	13.32%
3	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	517,700	10.56%
4	株式会社マイナビ	400,000	8.16%
5	インスパイア・テクノロジー・イノベーション・ファンド 投資事業有限責任組合	323,800	6.60%
6	株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント	240,000	4.90%
7	電通デジタル投資事業有限責任組合	200,000	4.08%
8	工木 大造	131,100	2.67%
9	宮川 洋	122,000	2.49%
10	吉野 弘彦	90,900	1.85%

(注)当社は、自己株式91,446株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。  
また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 株式についてのご案内（株主メモ）

上場市場	東京証券取引所 マザーズ
証券コード	6038
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	毎年6月30日
株式の売買単位	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。公告掲載URL： <a href="http://www.iid.co.jp/company/koukoku">http://www.iid.co.jp/company/koukoku</a> やむを得ない事由により電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
連絡先・郵便物送付先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711 (フリーダイヤル)



# iid Press

株主通信「イードプレス」

2018年6月期  
(2017.7.1~2018.6.30)

通期報告書

株式会社イード

(証券コード 6038)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報や判断に基づくものであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご了承ください。本資料の掲載内容については細心の注意を払っておりますが、その内容の正確性及び確実性を保証するものではないことをあらかじめご了承ください。本資料に掲載されている各セグメントの数値はセグメント内に連結調整を反映する前の数値です。

IRサイトのご案内

イード IR

検索

<http://www.iid.co.jp/ir/>